

# アンモン、 ラモーナイ王の父に会う

だい24しょう



ラモーナイ王は、アンモンを自分の父に引き合わせたいと思いました。しかし、主はアンモンに言われました。「行ってはいけません。ラモーナイの父は、あなたをころそうとするでしょう。」(アルマ20：1-2)



「かわりにミドーナの地へ行きなさい。兄弟のアロンはそこでもらうやに入られています」と主はアンモンにおっしゃいました。ラモーナイ王は、アンモンといっしょに行くことにしました。(アルマ20：2-4)



たびのとちゅうで、二人は、ラモーナイの父であるぜんこくの王に出会いました。「おまえはうそつきのニーファイ人とどこへ行くのだ。」父王は、ラモーナイに聞きました。(アルマ20：8、10)



それでラモーナイ王は、アンモンとらうやにいる兄弟のことを話しました。すると、父王はおこってラモーナイに、言いました。「アンモンをころせ、ミドーナの地へ行ってはならない。」(アルマ20：11-14)



しかしラモーナイは言いました。「わたしはけってアンモンをころしません。二人でアロンをたすけに行きます。」父王はこれを聞いてますますはらをたて、刀をぬいて、ラモーナイ王をころそうとしました。(アルマ20：15-16)



アンモンはラモーナイをまもろうとして、その前に立ちふさがりました。すると父王はアンモンに切りかかってきました。しかしアンモンははなたいに、父王のうでを強くうちました。(アルマ20：17, 20)



ラモーナイの父は、アンモンにころされるかもしれないと思って言いました。「いのちをたすけてくれるなら、たとえ国の半分でもおまえにやろう。」(アルマ20：21, 23)



そこでアンモンは父王に言いました。「アロンとそのどうりょうをろうやから出してあげたいのです。それから、ラモーナイ王が国をおさめるようにしてください。」(アルマ20：22, 24)



父王は、アンモンが自分をころす気のないことを知り、またラモーナイ王をふかくあいしていることにおどろきました。そして、アンモンにふくいんを教えるように言いました。(アルマ20：26-27)



そこでアンモンとラモーナイ王は、ミドーナの地へむかいました。ラモーナイ王がミドーナの王と話し合ったけっか、アロンたちはついにじゆうのみになりました。(アルマ20：28)



アンモンは、兄弟たちがひどいあつかいをうけたことを知って、とてもかなく思いました。兄弟たちはたくさんのくるしい目にあいましたが、そのくるしみにたえたのです。(アルマ20：29)